

新しい土木史教材『図録土木史年表（仮称）』の作成について

足利工業大学 正会員 為国 孝敏

はじめに

近年、社会が成熟化し価値観が多様化する中で、土木を取り巻く社会環境が激変してきた。土木構造物に対する市民意識にも変化が現れてきている。

そうした背景にあって、土木史研究委員会では、土木構造物を文化財として位置づけて近代土木遺産調査を実施し、『日本の近代土木遺産』として刊行した。この結果、土木構造物は、まちづくり意識の高まりとともに、地域のアイデンティティとして市民に認知されるようになってきた。また、総合的学習の実施に伴い、土木をより身近に捉える素材を提供する波及効果も生みだした。一方で、豊かな生活を支えてきた土木技術の蓄積、貢献を社会に正しく伝えるための努力が我々に科せられて来ているだけでなく、土木技術者そのものの素養や倫理観を見つめ直す時期にも来ている。

そうした中で土木史研究委員会では、大学での土木史教育の必要性を指摘し続けてきたが、常に人材不足、教材不足等の課題に直面してきた。そこで、土木史教育の普及や土木の正しい姿の啓発に役立てることを意図して、若手研究者を中心とした研究グループを組織し、新たな発想での教材を作成するために「土木史教材検討小委員会」を設立した。

ここでは、この小委員会で目指す教材の意図や方向性を紹介する。

1.『図録土木史年表（仮称）』の内容

(1) 作成の趣旨

現在使用されている土木史の教科書は、土木の通史を著者の史観で記述されているものがほとんどである。そのため、この教科書を用いて授業を行う講師には、ある程度の史観の理解が要求される。そこで、初学者に教えるための論点（共通点）が曖昧となる場合が多い。

一方、土木技術者倫理への要求や、土木技術者試験の導入等の土木学会をめぐる近年の動きを鑑みると、土木技術者になるための一般教養として客観性を持たせた土木史教材が不可欠である。すなわち、時系列的な社会の変遷を縦軸とし、それぞれの時代性や社会性の中で育まれ取り組まれた土木技術の系譜や、それらの効果等を横軸とした視点で土木の歴史を表現することが望まれる。また、土木初学者への一般教養的教材のためには、重要性の高い史実を確実に取り込むことや、理解しやすい表現に努めることが必須となろう。

そこで、細かい史実を掘り起こすのではなく、重要度の高い史実とその背景を一つの切り口としてストーリー性を持たせ、図版・写真を中心とした年表形式の図録を土木史教材として作成することにした。

(2) 図録の目的・対象・体裁等

図録年表は、時代の変遷を分かりやすく表現することが可能である。また、取りあげる視点を明確にすることによって、理解しやすく、かつ講義しやすい教材となりうる。そこで本図録では、大学1、2年次生（初学者、二級土木技術者試験程度）の読者層を対象に、原則として近代の土木計画・設計史の視点から、図版・写真と年表にて土木の本質を的確に表現することを目的とする。

理解しやすさを第一に考えるために、体裁はA3版見開き1枚でストーリーを完結させることとし、縦軸に基本となる年表、横軸に視点となる切り口で構成し、全体で100ページ程度の頁数を想定する。

(3) 目次構成・内容のイメージ

目次構成イメージ（未確定）は、議論が続けているが、概ね以下のような構成をイメージしている。なお、一部は著者の私見であることをご了承ください。

キーワード 土木史教材 土木史教育 図録

連絡先 〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 TEL.0284-62-0605 FAX.0284-64-1061

第1編：分野別に見た図録年表（各分野見開き5枚程度で表現予定。順不同）	第2編：総合的な歴史解釈で見た図録年表（各視点を見開き1枚程度で表現予定）	第3編：記録集（土木史の基礎情報を図化して表現する）
河川改修の近代計画設計史	近代技術黎明期（導入期）における土木技術の到達点	人物、法制度、組織、技術等の系譜、流派等の図録
鉄道計画の近代計画設計史	お雇い外国人技師による計画設計思想	諸外国との計画・技術的系譜等の図録
道路の近代計画設計史	富国強兵・殖産興業政策と土木	社会的貢献度と対応度（国民の福祉・生活・文化の向上度）の図録
橋梁の近代計画設計史	20世紀初頭における土木技術の到達点	その他
港湾計画の近代計画設計史	関連法制度の整備における計画思想	
電力・電気事業の近代計画設計史	関東大震災・帝都復興事業がもたらせたもの	
砂防の近代計画設計史	戦前における土木技術の到達点	
ダムの近代計画設計史	戦災復興事業がもたらせたもの	
水道の近代計画設計史	経済自立に向けた社会基盤整備（技術導入と受容）での計画思想	
都市計画の近代計画設計史	高度経済成長を支えた土木技術の発展過程	
	開発と保全、公害と環境問題への模索	
	土木アイデンティティの模索と美しい国土づくりへの胎動	
	その他	

2.『図録土木史年表（仮称）』の作成ステップおよび組織体制

教材の作成には、以下のステップで研究を進める。

- ・教材の対象、目的、分類、成果品イメージ、提供シナリオ等の検討（平成15～16年度）
- ・各自が理想とするイメージの作成、意見交換・勉強会（平成15～16年度）
- ・プロトタイプの完成（平成16年12月予定）
- ・担当分野の資料収集、分類・整理、原案作成・勉強会（平成16年度）
- ・成果のとりまとめ、編集・出版、シンポジウムの開催（平成17年度）

また、土木史教材検討小委員会の委員と担当分野は以下のとおりである。

おわりに

土木史教材検討小委員会は、土木史の社会貢献の理想を追求する中で組織され、平成16～17年度の2年間で『図録土木史年表（仮称）』を刊行する行動計画のもとに結集した。若輩を不安視・疑問視されることや成果への批判も覚悟の上で活動する

ことへのご理解をお願いしたいとともに、前向きなご指導ご助言を賜れば幸いである。なお、我々の活動を後ろ盾いただいた、平成15年度土木史研究委員会の中村良夫委員長、小林一郎幹事長をはじめ委員各位に感謝の意を表します。

為国孝敏	（足利工業大学教授、委員長、鉄道・港湾）
原口征人	（北海道開発技術センター道路情報館、幹事長、道路）
知野泰明	（日本大学工学部講師、河川・ダム）
岡田昌彰	（近畿大学理工学部講師、水道）
中井 祐	（東京大学工学部講師、橋梁）
田中尚人	（岐阜大学工学部講師、発電）
北河大次郎	（文化庁文化財部、砂防）
五島 寧	（横浜市都市計画局、都市）
日野 智	（秋田工業高等専門学校、交通）